

令和5年度第2回理事会（令和5年5月20日）承認

A005982 令和4年度事業報告書

令和 4年 4月 1日から
令和 5年 3月31日まで

公益社団法人日本グライダークラブ

公益社団法人日本グライダークラブは、内閣府所管のもと、航空の安全の促進と発展を目的として設立された公益社団法人です。その目的と主な事業内容は定款に以下のように示されています。

【目的】第3条 本クラブは青少年を始め、大空に憧れを抱く者に対し、体験搭乗及び操縦・整備技術などの指導・教育を通し、航空知識の普及とこれらの伝承を行うと共に国際交流を行い、グライダースポーツ文化の向上・振興を図り、もって我国グライダー界の発展に資することを目的とする。

【事業】第4条 本クラブは前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) グライダーの啓蒙・啓発・普及に関する事業
- (2) グライダー及び曳航機の操縦技術の向上、及びその指導者の養成
- (3) グライダーの操縦技術、整備技術等、及び安全運航・事故防止対策に関する研究並びにその施策
- (4) グライダー及び関係する装備・計器などの設計・制作・整備・修理・改造
- (5) この事業に必要な機材、施設、設備などの整備、及び人材の養成
- (6) その他本クラブの目的を達成するために必要な事業

当クラブでは定款に掲げる理念のもと、令和3年度事業計画に基づき、令和4年4月～令和5年3月期は下記の通り公益事業をはじめとした様々な活動を実施しました。令和5年度も引き続き公益事業を積極的に推進する所存ですので、クラブの活動と運営に皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します

A. 公益目的事業 1 (公1) グライダーの操縦・整備技術の研究・伝承と指導者の養成

A-I. グライダー普及のための体験搭乗会

期間：令和4年4月～令和5年3月の各週末・祭日

主催：公益社団法人 日本グライダークラブ

参加人数計：95名

A-I-1. 体験搭乗案内をクラブのホームページにて募集 (随時)

参加人数：52名

A-I-2. 地元板倉町のふるさと納税の返礼品として、グライダー体験搭乗の実施 (随時)

参加人数：8名

A-I-3. 会員・賛助会員・家族・友人搭乗会(毎月第3日曜日)

参加人数：35名

複座機利用練習生が増えていることから会員の搭乗機会とのバランスを保ちながら実施した。

A-II. 安全なグライダーおよびモーターグライダー操縦士の育成

A-II-1. パイロットの養成 (技能証明取得のための訓練)

期間：令和4年4月～令和5年3月の各週末、祭日、および週日

参加人数：グライダー練習生20名、グライダーライセンスリフレッシュ訓練12名、モーターグライダー練習生1名、モーターグライダーライセンスリフレッシュ訓練2名

概要：滑空機（上級・動力）技能証明取得、技能証明保持者のリフレッシュのための学科および操縦技術について、座学および飛行訓練を実施した。

A-II-2. 指定航空従事者養成施設板倉訓練所の維持管理

期間：令和4年4月～令和5年3月の各週末、祭日、および週日

参加人数：

概要：指定航空従事者養成施設 教育規定で定められている教育施設の維持管理、学科教官5名、実技教官4名の技能確認を実施し、日本滑空協会指定航空従事者養成施設を維持した。

A-II-3. クロスカントリーフライトパイロットの育成

① 高性能グライダーによるクロスカントリー

期間：令和4年4月～令和5年3月の週末、祭日

参加人数：15名

概要：高性能複座機を使用して経験豊かな教官の指導のもと、関東周辺から日本アルプス、東北地方への長距離飛行の訓練を試みた。

② 動力滑空機による航法訓練

期間：令和4年4月～令和5年3月の週末、祭日および週日

参加人数：5名

概要：動力滑空機を使用して関東周辺から福島空港などへの航法訓練を実施した。

A-II-4. エアロバティックフライトパイロットの育成

未実施

A-II-5. ウェーブフライトパイロットの育成

期間：令和4年4月～令和5年3月の週末、祭日および週日

参加人数：10名

概要：高性能複座機を使用して経験豊かな教官の指導のもと、ウェーブ（山岳波）を利用して高高度飛行の訓練を試みた。

A-II-6. 世界選手権（速度競技・曲技）、日本選手権等の競技会出場選手の養成

期間：令和4年4月～令和5年3月の週末および祭日

参加人数：2名

概要：海外選手権参加予定の2名のパイロットに対し、練習環境の充実と支援態勢を整えた。

A-II-7. 飛行頻度バロメーターに準拠した年間飛行目標回数、飛行時間の達成

今年度未実施

A-II-8. 希望者の要望に応じた目標設定とサポート

今年度未実施

A-III. グライダーの普及ならびに飛行技術の向上を図るための講習会

A-III-1. グライダーベーシックコース

今年度未実施

A-III-2. グライダー操縦士資格取得 受験対策コース

① グライダー受験準備 (適時)

期間：令和4年4月～令和5年3月の週末、祭日および週日

参加人数：20名

概要：自家用操縦士滑空機上級取得に向けたトレーニングを行った。

② 自家用操縦士滑空機上級 (HCG) から動力 (MGO) への限定変更受験準備 (適時)

期間：令和4年4月～令和5年3月の週末、祭日および週日

参加人数：1名

概要：自家用操縦士 (滑空機動力) 限定変更に向けたトレーニングを行った。

③ 事業用・教育証明受験準備 (適時)

今年度未実施

A-III-3. 自家用上級滑空機 指定養成コース

① 指定養成入所準備コース (年1回)

期間：令和4年10月15日、令和4年10月16日

参加人数：2名

概要：指定航空従事者養成施設入所に向けた知識、技量の習得、確認を行った。

② 指定養成課程 (年1回)

期間：令和4年11月20日～12月17日の間の8日

参加人数：2名

概要：(公社)日本滑空協会 指定養成従事者施設 令和3年度第5期板倉コースが開催された。牧野会員、松井伶子会員が合格し、ライセンスを取得した。

A-III-4. クロスカントリー (C/C) 講習会

① グライダーによる C/C の講習会 (座学およびフライト) (適時)

② モーターグライダーによる航法の講習会 (座学およびフライト) (適時)

③ モーターグライダーによる不時着場の下見 (適時)

今年度未実施

A-III-5. ウェーブフライト講習会

- ① ウェーブフライト講習会（座学）（適時）
- ② ウェーブフライト講習会（フライト）（適時）

今年度未実施

A-III-6. EMFT 講習会

- ① 異常姿勢からの回復、緊急操作の技量向上の為の講習会（年1回以上）

期間：令和4年11月19日、11月20日

参加人数：12名（内7名会員）

概要：日本滑空協会 滑空スポーツ講習会 実技講習会 EMFT 講習会を主管クラブとして開催した。櫻井会員が講師、酒井会員が曳航スタッフ、岡村会員、丸山会員が事務局として対応した。

- ② 上記の指導者の養成

今年度未実施

A-III-7. 高々度飛行に必要な知識習得のための講習会

- ① 高々度飛行に必要な知識（年1回）

A-III-5 と重複

A-III-8. 事業用・教育証明受験準備講習会

飛行を目的としたより高度な指導技術を有する指導者の養成を目的とした講習会(座学 年2回、実技 年1回)

今年度未実施

A-III-9. 板倉安全会議

- ・定期板倉安全会議

期間：令和4年12月24日

参加人数：40名

概要：改訂したオペレーションハンドブックの内容の紹介、1年間の板倉滑空場で発生したヒヤリハット、インシデントおよび過去の事故事例を振り返る学びの場を、板倉サロンと Zoom を利用したオンラインで開催した。講習会動画は会員限定 YouTube でいつでも閲覧できるようにした。

A-III-10. 整備講習会

期間：令和4年4月～令和5年3月の下記日程

参加人数：46名

概要：延べ17コースの整備講習会を開催した。46名が参加し、12名の整備士が誕生した（二等航空運航整備士 滑空機上級 10名、二等航空整備士滑空機上級 2名、二等航空整備士滑空機動力 0名）。

山木講師、畠本講師、二宮講師の3人体制で整備士資格取得希望者の増加に対応した。

会員からは長谷川会員（二等航空運航整備士 滑空機上級）、谷澤会員（二等航空運航整備士 滑空機上級）が資格を取得した。

A-III-11. JSC ウェブサロン オンラインセミナー

今年度未実施

A-IV. 競技会の開催

A-IV-1. 令和3年度「OLC 板倉マンスリーコンペ」滑空競技会

期間：令和3年12月～令和4年11月

参加人数：33名

概要：板倉滑空場をベースとして活動するグライダーパイロットを対象として、オンラインコンテスト（OLC）を利用した月間競技会を開催した。各月、年間を通じて優秀なフライトに対して表彰を行った。（表彰者は付録参照）

A-IV-2. 日本選手権等開催などへの協力、滑空場の提供

今年度開催無し

A-IV-3. 世界選手権等の競技会出場会員へのサポート

A-V. グライダーの操縦技術、安全運航、事故防止対策に関する研究会、講演会などの開催

A-V-1. AFRコース（Annual Flight Review 年次フライトレビュー）

期間：令和4年4月～令和5年3月の各週末、祭日

参加人数：板倉滑空場で機長として飛行する操縦者全員（滑空機37名、動力滑空機18名、飛行機10名）

概要：板倉滑空場にて、機長として飛行するパイロットに対して、クラブ規定により1年に一度義務付けられているAFRを、滑空機、動力滑空機、曳航機毎に実施した。

A-V-2. 特定操縦技能審査（滑空機、飛行機）

期間：令和4年4月～令和5年3月の各週末、祭日

参加人数：板倉滑空場で機長として飛行する操縦者（滑空機13名、飛行機5名受審）

概要：法制化された特定操縦技能審査（機長として飛行する操縦者は2年毎の受験が義務づけられる）を実施する態勢を整えている。

A-V-3. 操縦インストラクター・曳航パイロットの任用・リフレッシュ訓練

期間：令和4年4月～令和5年3月

参加人数：グライダーインストラクター17名（内指定養成教官5名）、曳航パイロット14名、モーターグライダーインストラクター7名

概要：特定操縦技能審査制度、AFR規定、インストラクターおよび曳航パイロット任用規定に従い実施。

A-VI. グライダーに関する出版物等による航空思想の普及

A-VI-1. クラブホームページの整備、ブログ、Twitter での情報発信

- ・2022年のホームページのページビューは90,000ページビューで前年度の80,000ページビューから10,000ページビューの増加となった。令和4年度は体験搭乗問合せ84件、内17名の入会に繋がった。
- ・Twitter, Facebookのフォロワー数は2023年4月時点で合計1,220名となり、2022年4月と比較して207名の増加となった。ブログと併せてクラブの活動状況の一般への認知向上、新入会員の入会へ繋がっている。

A-VI-2. 広報誌 JSC ニュースの制作、関連図書出版

- ・クラブニュース「JSC News」を四半期毎に年4回発行した（2022年7月、2022年10月、2023年1月、2023年4月）。事業報告書に沿った内容に加えて、クラブ内での周知事項（特集記事、新入会員紹介、アナウンス、経理担当からのお知らせ、おめでとうございます、整備関連のお知らせ、安全関連、その他のお知らせ、過去のお知らせより）についてもまとめて掲載し、クラブ内コミュニケーションツールとして活用している。
- ・館林ケーブルテレビ「うらら」日本グライダークラブ紹介映像放映、取材対応（4/2、4/25）
- ・板倉町広報誌「広報いたくら」2022年7月号記事掲載 「みぢかな情報 Face グライダー国内初の快挙を達成 広大な地上を見下ろす 風切り音だけの静寂の世界」田上会員の取材記事掲載
- ・上毛新聞掲載（9/23）【アウトドア】②体験搭乗フライト 日本グライダークラブ板倉滑空場（板倉町除川）風音のみ 高度600メートルの景色 8/21日（日）上毛新聞様取材 目的 群馬県内のアウトドアスポットを紹介する「アウトドア群馬」毎週日曜日の経済面掲載

A-VI-3. グライダー気象情報利用者拡大へのPR

- ・グライダー気象サービス BLIPMAP <http://blipmap.glider.jp/>の国内向けサービス（関東エリア、東北エリア）のサーバー運用、及び北海道、中部、九州エリアのサーバー運用支援を岡村理事が行っている。
- ・グライダー気象サービス SkySight <https://skysight.io/> の日本語化サポート、普及促進を寺本会員が行っている。

A-VII. 学生団体合宿の受け入れ

A-VII-1. 学生団体の合宿、訓練の受け入れ、普及貢献

下記2団体から延べ10日、26名の訓練受入を行った。

- ・学習院航空部

期間：令和4年4月～令和5年3月の各週末、祭日 計2日

参加人数：計5名

概要：体験搭乗、航空機曳航訓練を実施。

- ・慶應義塾體育會航空部

期間：令和4年4月～令和5年3月の各週末、祭日 計8日

参加人数：計21名

概要：モーターグライダーを利用した銀賞 50km の下見、三田ソアリングクラブ Duo Discus XT を利用したソアリング訓練を実施。

B.公益目的事業 2（公 2 航空情報提供事業）

B-I. 板倉フライトサービスの運用

板倉滑空場付近の航空の安全を図るため、運航日毎にフライトサービス担当者を指名し、周辺を飛行する航空機からの飛行情報の要求に的確に対応できる態勢を整えている。

*AIC 041/14 板倉フライトサービス：滑空場周辺半径 5NM 以内 5,000ft 以下。

B-II. 緊急時の場外離着陸場の提供、維持管理

B-II-1. 陸上自衛隊航空学校宇都宮分校訓練ヘリの場外離着陸場としての使用承諾

訓練ヘリコプターの予防着陸のため、緊急時の場外離着陸場として使用したいとの要請があり陸上自衛隊航空学校宇都宮校と年度毎の使用承諾書を締結している。陸上自衛隊ヘリコプターの不時着訓練を平日に随時実施している。

B-II-2. ドクターヘリのランデブーポイントの提供

栃木県、群馬県ドクターヘリのランデブーポイントを提供している

C.クラブ組織の整備

C-I. 定款及び規程に沿った公益事業の執行、事務作業の効率化

C-I-1. 会員総会、理事会の適正な開催（時期、議案）によるガバナンスの強化

定款に従った公益事業執行体制、定款および規定に沿った業務遂行により、組織の充実を図った。また、オンラインミーティング（Zoom）を活用して、総会、理事会、スタッフミーティング、各種講習会をオンラインとのハイブリッドで開催して感染予防、参加促進に努めた。

・令和4年度総会(6/11)

会員数 101 名（2022/5/21 時点）、返信 電磁的記録 81 名、書面 1 名 合計 82 名

当日参加 サロン参加 15 名 オンライン参加 14 名

以下議案が賛成多数を持って決議された。

- 1) 令和3年度(72期、R3年4月1日～R4年3月31日) 事業報告
- 2) 令和3年度(72期、R3年4月1日～R4年3月31日) 決算報告
- 3) 新橋事務所廃止及び定款第2条の変更について

・令和4年度理事会

12回の理事会を開催した。

C-I-2. 会計業務外部委託、ネットバンキング活用、会計ソフトの会計事務所との共通化による業務効率化

- ・ 経理業務の業務委託を継続した。
- ・ 会計ソフトの会計事務所との共通化を行い、会計事務所の業務効率を高めることに協力した。
- ・ 決済代行サービスを Flico（オリックス）からセゾンへ変更した。

C-I-3. 板倉での支払いキャッシュレス化による業務効率化

会員については口座引落、一部の体験搭乗については Air ペイのクレジットカード決済サービスでの対応でキャッシュレスを実施した。

C-I-4. データ共有化（One Drive、Google Drive）による事務作業効率化

- ・ 会員への支払、会員からの引落データを One Drive で共有し、会員自身での確認を可能にしている。
- ・ テックスーフ・ジャパンとの公益法人を対象としたソフトウェア寄贈プログラムの契約により、Microsoft 社製品、Zoom 社製品、ノートン社製品の優待利用、Google 社の非営利団体向けプログラム”Google Apps for Nonprofits”の無償利用が可能になり、資料共有、写真共有、講習会動画共有など、クラブ内外の活動に活用している。

C-II. 人材

C-II-1. 運航スタッフの育成

運航を支える運航リーダー、インストラクター、曳航パイロット、ピスト担当の育成、EMFT、クロスカントリー、モーターグライダー、指定養成施設のインストラクターの育成、充実。

- ・ 市川会員が新たにデモインストラクターのチェックアウトを行った。
- ・ 熊谷会員のグライダーインストラクター、デモインストラクター、曳航パイロットの復帰訓練を行っている。
- ・ 櫻井インストラクターの運航リーダー任用を行った。
- ・ 長谷川会員のインストラクター任用を進めている。
- ・ ピスト担当者 6 名（末松会員、畠本会員、山本会員、渡邊泰啓会員、嶋田会員、田村会員）の任用を進めた。
- ・ 以下の運航スタッフの体制を維持した。
- ・ グライダーインストラクター18名（丸山チーフインストラクター、稲垣会員、宇賀神会員、茂木会員、岡村会員、小林会員、宗会員、櫻井会員、三ツ目会員、中西会員、吉岡会員、本田会員、須長会員、市川会員、宮原会員、津久井会員、熊谷会員）、指定航空従事者養成施設インストラクター5名（稲垣訓練所長、丸山会員、岡村会員、津久井会員、鈴木重輝会員）
- ・ モーターグライダーインストラクター8名（茂木チーフインストラクター、櫻井チーフインストラクター、岡村会員、中西会員、丸山会員、小林会員、熊谷会員、市川会員）
- ・ ハスキー曳航パイロット8名（岡村タグマスター、稲積会員、初野会員、田上会員、酒井会員、熊谷会員、市川会員、萩原会員）
- ・ デモナ曳航パイロット11名（岡村タグマスター、稲積会員、田上会員、熊谷会員、市川会員、茂木会員、篠崎会員、櫻井会員、中西会員、須長会員、小林会員）の体制を維持した

- ・曳航パイロットの飛行機特定操縦技能審査員資格取得についての調査を進めた。

C-II-2. 整備スタッフの育成

- ・機体整備内製化を支える整備士、耐空検査員の育成、充実
- ・クラブ整備スタッフ6名の体制を維持した。(山木会員、宇賀神会員、二宮会員、畠本会員、藤元会員、岩崎会員)
- ・耐空検査員6名の体制を維持した(吉田功検査員、山本検査員、初野検査員、山木検査員、岡村検査員、藤元検査員)

C-II-3. 特定操縦技能審査員の育成

- ・市川会員が新たに滑空機の特定操縦技能審査員の認定を受けた。
- ・特定操縦技能審査員は飛行機4名(鈴木会員、櫻井会員、植田会員、鐘尾会員)、滑空機18名(丸山会員、小林会員、宗会員、稲垣会員、津久井会員、三ツ目会員、鈴木会員、茂木会員、岡村会員、櫻井会員、中西会員、宮原会員、宇賀神会員、熊谷会員、須長会員、植田会員、鐘尾会員、市川会員)の体制を維持した。

C-II-4. 滑空記章試験員の育成

- ・日本滑空記章試験員8名(宇賀神会員、岡村会員、熊谷会員、中西会員、宗会員、櫻井会員、丸山会員、宮原会員)国際滑空記章公式立会人6名(市川会員、宇賀神会員、岡村会員、中西会員、櫻井会員、丸山会員)の、滑空記章取得の体制を維持した。

日本滑空記章A章3名、B章2名、C章2名、銅賞2名、国際滑空記章銀賞5時間1名を達成した。

C-II-5. 管理業務スタッフの育成

理事、板倉事務所長、JSA Info 担当、ホームページ/SNS 担当、ML 管理者等の業務スタッフ要員の育成

- ・来年度の理事改選に向けて、理事交代時の後任理事への依頼を行った

C-II-6. 会員ボランティア促進

以下の活動について会員の積極的な対応を促進した。

- ・活動日の藤岡駅ピックアップ
- ・ライセンス所有会員のフライトサービス対応
- ・年末大掃除、滑空場整備作業、草刈への参加

C-II-7. 若年層支援プログラムの拡大

クラブの持続的な継続を目的として、若年会員の拡大に努めるため、ジュニア/ユース会員制度、ラインサポーター制度を活用して若年層支援および若年会員の拡大を行った。また、クロスカントリー飛行等高度な飛行への挑戦などを目指している若者を対象としたユースキャンプ開催の受入を行う(今年度未実施)。

- ・ユース会員14名、ジュニア会員13名と若年層が拡大し、会員の平均年齢が54歳と2021年度と比較してさらに一歳若返った。ユース・ジュニア世代はライフイベント(就職・転勤・結婚出産)に伴いクラブ継続が一時的に難しくなるケースもあり、賛助会員制度を活用した一時休会・再復帰を案内している。

- ・ラインサポーター制度：令和4年度参加者11名

大学航空部員を対象に、運航に参加することで、クラブの雰囲気を知り、若年層が入会しやすくなる施策を実施している。本制度の経験をへて新規入会するジュニア・ユース会員が毎年若干名存在する。2022年度は2名がラインサポーター制度を経験して入会した。

C-II-8. 世界選手権・日本選手権への選手・チーム・クルー・スタッフとしての参加・協力

・速度競技世界選手権について 丸山会員がハンガリーで開催された第37回グライダー世界選手権18mクラスに参加した。32位 / 42機。佐志田会員が日本チームキャプテンとして参加した。

・アクロ競技世界選手権について 酒井会員がフランスで開催された第24回グライダーアクロ世界選手権アンリミテッドクラスに参加した。17位 / 17機。

C-III. 機材・施設

C-III-1. 飛行機材の充実

①次期曳航機の導入

曳航機整備については外注整備、なおかつ経年劣化に伴う整備費増大が続いており、費用軽減のためにも新曳航機への更新が喫緊の課題である。

2019年から3年計画で「時期曳航機のための募集特定寄付」事業を実施中だが、目標額到達が困難なため、期間を2年間延長し2024年までとし推進している。令和4年度実績は2,042,000円（延べ68名）となった。2019年10月の開始から、合計11,314,000円、（延べ135名）となった。目標は20,000,000円、募集期間を2024年10月まで2年延長して、目標達成まで継続することとした。

日本グライダークラブは1951年に創立され、2021年度が創立70周年になった。2021年度は創立70周年記念寄付事業として記念グラスを作成、記念寄付事業を検討、2022年4月に70周年記念寄付事業を行い、57名から109件の申込をいただいた。申込頂いた方には記念グラスを配布した。記念寄付事業としていただいた1,090,000円の寄付は全額「次期曳航機の為の募集特定寄付」に充当した。

②JA4171 ハスキーエンジン更新

現行曳航機JA4171のエンジンのオイル消費率が上昇したため、新曳航機更新前に急遽現行曳航機のエンジンの交換が必要となり、当初令和4年度計画では想定していなかったが2022年5月にリビルト品の発注を行った（2023年6月工場出荷見込み）。800万円の資金計画で「ハスキーJA4171交換用エンジンの為の募集特定寄付」事業を別途募集した。2023年3月31日までで、延べ54名から5,925,000円の寄付を頂いた。

エンジン交換まではクラブ曳航機JA4171は限定的な運用とし、運航日の約半分を浅田氏の曳航機での曳航を実施した。

③練習機

現行の3機体制（Twin-2、Twin-3、Astir）を維持した。老朽化に伴い、JA2412のパラシュート更新を実施した。

④スタンダード機（Discus、LS-4）導入について

継続検討。

オーナー会での飛行を希望する会員については適時オーナー会への紹介を行った。4名の会員が新たにオーナー会に所属してフライトを開始した。

⑤高度な飛行技術の伝承に必要な高性能複座機について

オーナー機レンタル制度を継続検討。

⑥ディモナ

単座機曳航、グライダー操縦訓練、不時着場下見、技能証明限定変更訓練等に活用した

・機体整備

クラブのグライダー3機、モーターグライダー1機の整備はクラブ整備スタッフにより内製化が継続できている。内製化により、整備による休止期間の短縮、整備費用軽減に繋がっている。

C-III-2. 運航機材の維持、更新

①草刈り機の維持・整備。

2021年度に導入した滑走路用草刈り機については、整備スタッフでの整備を継続して維持している。

現行の土手法面草刈り機 HMD91 については軽量の運転者の方向転換操作の際は草刈り機の転倒・脱輪の可能性があるため、安全性を考慮して次期土手法面草刈り機の検討を行った。



②ピストカー、燃料車について

老朽化が進んでおり、更新計画を検討する。

C-III-3. 滑走路の維持・整備

①会員ボランティアによる草刈りの励行

草刈隊9名（二宮リーダー、山木会員、稲垣会員、宇賀神会員、須長会員、藤元会員、千葉会員、岡村会員、深沢会員）+地元ボランティア築井氏を中心に、4月から10月まで、平日に週2回ペースで実施した。

延べクラブ員30回、築井氏40回の草刈を実施した。ディスクモア草刈機により、植生が変わり、芝が増え、雑草が減ることになって良好な路面を維持できている。トラクターの性能向上により、草刈の時間が短縮されている。今年度から新規で5名（末松会員、畠本会員、萩原会員、野々村会員）に草刈隊に加入いただき、任用教育を実施、草刈業務を開始した。



②滑走路面、土手側運搬路、坂路の整地



③布ハン、吹き流しの維持・整備

C-III-4. 施設の維持、整備

①板倉事務室の整理・整頓。床、天井の維持（将来の補修計画検討）。

- ・事務所プレハブ設置箇所の地盤沈下により、床面が傾斜した。クラブ員によりプレハブをジャッキアップして補修した

②サロン、浴室、キッチン、トイレの維持・整備。

- ・サロンテレビ故障に伴い大平会員寄贈のテレビを設置した
- ・教室に会議用ディスプレイとして畠本会員寄贈のテレビを設置した
- ・サロンキャビネットを石川会員寄贈のキャビネットと置き換えた

③休憩室（2F）、女子部屋の維持・整備。

- ・寝具の整理、水洗いを行った

④整備場の整理・整頓、工具の拡充。整備小屋の補修。

⑤格納庫、補修必要箇所の調査。

⑥ライブカメラを用いた滑空場運航情報提供

- ・ウエザーニュース社のライブカメラを格納庫上部に設置し、滑走路の状況を常に視認できる態勢をとり、来訪者の利便性を高めている。（ウエザーニュース社ホームページと、クラブホームページから閲覧可能）

⑦PC、複合機、無線 LAN の維持、更新

- ・光ルーターの交換を行い、サロンでのインターネット接続を安定化した。光回線の 1Gbps 対応を実施した。

⑧格納庫前の駐車場排水整備

令和4年12月25日大掃除の際に格納庫前駐機場の排水改善工事を43名が参加して行った。雨上がりの排水に改善が見られた

C-IV. 組織運営

C-IV-1. 安全活動の強化

①ヒヤリハットレポートの促進、活用、共有化

ヒヤリハットレポートの提出促進、活用により経験を共有し、航空事故防止を図った。令和4年度は15件のヒヤリハットレポートが提出された。

②インストラクターミーティングの定期開催（四半期毎）

2020年8月のインシデントを踏まえて、四半期毎に定例スタッフミーティングを開催している。会員の状況、スタッフ間で共有、検討したい内容について討議を行った。

06/18開催 参加17名、09/17開催 参加15名、12/17開催 参加13名、03/25開催 参加17名

③飛行終了後のデブリーフィングの定着と安全情報の共有

・デブリーフィングでの気づき・ヒヤリハットの共有、会員メーリングリストでの運航報告、必要に応じてスタッフメーリングリストでの対策検討、次回運航日の朝ブリーフィングでの情報共有、必要に応じてチェックアウトシステム、各種ガイドラインの更新、作成、オペレーションハンドブックの改訂による仕組み化、といった一連の安全行動システムのサイクルを回すようにしている。

・2023年1月に6年ぶりにオペレーションハンドブックの改定を行った。



日本グライダークラブの安全行動システム



④安全飛行確保の為の教育方法の高度化

・2020年8月のインシデントを受けて、進度表、シラバスの改訂を行った。パイロットに判断を促す様々な課題を設定して行うことで、想定外に発生することを想定・対応できるようなトレーニングを心がけている。

・クラブグライダーでの単独飛行を行うにあたり、機体別（TwinII, TwinIII, Astir）のチェックアウトフォームを作成した。クラブ機での単独飛行前にインストラクターが確認を行った上で単独飛行を許可する形とした。

・パイロットカルテをオンラインでスタッフ限定で共有してフライトでの気づきを共有するようにしている。パ

イロットカルテの内容はスタッフミーティングで定期的に見直している。

・オーナー会個人機については担当インストラクターをアサインして、担当インストラクターがチェックアウト、チェックアウト後の見守り、相談を担当し、必要に応じてスタッフミーティングで検討を行っている。

⑤その他

・令和4年1月オミクロン株による感染の急拡大、群馬県「まん延防止等重点措置」発令後の対応

日頃からの感染防止対策の励行に加えて、今一度、基本的な感染対策の徹底と日常の体調管理を会員に対して依頼し、運航を継続した。

・令和5年3月のマスク着用の方針の政府決定を受けて、令和5年3月末からマスク着用は屋外、屋内を問わず個人の判断とした。

C-IV-2. 運航回数増への取り組み

経営基盤の強化、平日に活動できる会員の増加に対応するため下記を実施。

① 隔週金曜に実施しているモーターグライダーの平日運用日の拡大。

② デイモナ搭乗料バックキャンペーン、曳航バックキャンペーン等の割引制度の活用。

令和4年度未実施

③ デイモナ運航に合わせた単座グライダーの金曜運航

④ ハイシーズン限定の平日運航（金、月限定）

・モーターグライダーの金曜運航、デイモナ運航に合わせた単座グライダーの金曜運航時のスタッフの確保

令和4年度は平日デイモナ運航を12日（計画24日）行うことで、デイモナ飛行時間は曳航以外で101時間となり、会員の訓練機会の要望に対応することができた。曳航収入、練習収入を拡大することが出来た。

平日対応可能なデイモナインストラクター、デイモナ曳航パイロットを4名に拡大した。

単座機のデイモナ曳航は猛暑期以外で実施することとした。

・近隣ホテルとの法人契約

カンデオホテルズ、ルートインホテルズ、館林ヒルズホテルと法人契約を継続して、連続でのクラブ参加時の利便性を高めている。

C-IV-3. 滑空記章取得促進のための体制

①滑空記章試験員、公式立会人の養成、申請

C-II-4と重複

②滑空記章のレベルに対応した講習会の開催（適時）

今年度未実施

③滑空記章試験に必要な滑走路の整備、データロガーの整備

今年度未実施

C-IV-4. 新橋事務所の業務移管

①会計業務の外部業務委託は2021年度に完了

②会員管理、保険契約は板倉事務所長に2021年度中に移管完了

③メール、HP問い合わせ、電話は理事長に転送設定済

④新橋事務所業務移管は目途が立ったので、新橋事務所の廃止を検討

2022年6月の会員総会で新橋事務所の板倉への移転の定款変更を承認、7月に変更登記を完了、8月末で新橋事務所の撤収を行った。各種契約先の登録事務所変更作業を行った。年間で100万円の経費削減につながった。

C-IV-5. 板倉管理人の業務引き継ぎ

①2021年6月から板倉常駐ではなく必要時業務支援に変更

②機材・施設整備、燃料手配、飲料補充、経理伝票発送業務等を実施

③将来の引き継ぎ検討要

D. その他クラブの目的に必要な事業

D-1. 動力機の騒音対策

①騒音対策のため滑空場周辺に5ヶ所（令和4年7月に1ヶ所追加）の飛行規制空域を設定し、それらの上空を避けるために見直した曳航経路の利用を継続した。

②エンジン騒音の低い動力滑空機スーパーデモナを単座機の曳航に活用した。

③北風発航時の滑走路北側エリアの騒音を低減させるために、滑走路33の離陸帯を平坦化して発航位置を150m南側へ移動し、北風発航時の曳航上昇高度を高くした。

④季候の良い時期の南風発航（滑走路15利用時）時は、15ライトターンデパーチャーパターン下の騒音防止区域を避けたるため、可能な単座機、デモナはレフトターンデパーチャーを使用して飛行を行った（猛暑期は考慮不要）

⑤騒音クレームには板倉町役場とも連携して真摯に対応している。

D-2. 地域との交流

・ふるさと納税

*ふるさと納税の返礼品としてグライダー体験飛行を提供した。

令和4年度 ふるさと納税での体験飛行実施者：8名

*クラブ員有志が板倉町へふるさと納税を行い、地域との交流を図った。ふるさと納税への返礼品として、「日本グライダークラブ利用券」を登録することで、クラブ員の納税促進を図った。

令和4年度 ふるさと納税 日本グライダークラブ利用券実績：74件（30名）

・板倉町向け事業計画説明（10/14）

クラブの状況報告と飛行活動への理解を深めるため、稲垣理事長、小林理事が町役場を訪問し、事業計画の説明を行った。板倉町ホームページで紹介された。

<https://www.town.itakura.gunma.jp/cont/s001000/d001010/d000010/d000110/20221014000000.html>



・板倉町近隣住民向け四半期毎飛行計画チラシ配布のための板倉町役場への運航計画提出

板倉町からの近隣住民の方向けに四半期毎（4/1, 7/1, 10/1, 1/1 配布）にグライダー飛行計画案内のチラシを作成・配布頂いている。クラブからは板倉町役場企画財政課企画調整係に前月 15 日までに飛行計画を提出して確認頂いている。このような情報交換を通じて相互の理解を深めている。

・渡良瀬遊水地フェスティバル 2022 展示参加

台風と新型コロナで中止が続き、3年ぶりに 12/17 に藤岡渡良瀬運動公園で開催された。20名のボランティアで参加し、機体展示、紙飛行機教室、展示飛行を行った。寒空にもかかわらずハンドランチグライダー販売は179機となり、コックピット体験搭乗は閉場の16:00まで希望者が続いた。



・いたくら商工祭

コロナ禍のためイベント自体が中止された（10月下旬）

・渡良瀬遊水地スポーツ利用者等連絡協議会 「スカイスports部会」参加

渡良瀬遊水地利用者相互並びに河川管理者との一層の理解と連携を強化し、情報を共有するために渡良瀬遊水地スポーツ利用者等連絡協議会が設置されている。年1回開催される渡良瀬遊水地スポーツ利用者等連絡協議会は書面開催となった。

日本グライダークラブはスカイダイビング、ウルトラライトプレーン、熱気球、モータパラグライダー、グライ

ダーで構成されている「スカイスポーツ部会」で情報交換をしている。毎月オンラインで開催され、稲垣理事長が参加した。渡良瀬遊水地で行われるスカイスポーツイベント情報が共有され、他団体のイベントを考慮した運航を実施できた。

- ・除川神社 春祭、秋祭

- ・基地連絡会

コロナ禍のため令和4年度は未開催

D-3. 国内グライダークラブの組織化、交流、協力態勢の確立等への支援

①全国グライダークラブミーティングへの参加

- ・6/17 にオンラインで開催された。16 クラブが参加。各クラブのコロナ禍からの回復の状況、情報共有、課題についての情報交換が行われた。

②他クラブとの会員相互受け入れ等の検討

- ・今年度無し

③安全情報の共有

- ・D-4-④にて実施

D-4. 公益社団法人日本滑空協会（JSA）との連携

① JSA 主催の講習会等への協力

- ・日本滑空協会 滑空スポーツ講習会2022 実技講習会事前オンライン学科講習 6/18、6/26

講師協力 櫻井会員

- ・日本滑空協会 滑空スポーツ講習会 2022 実技講習会 EMFT 講習会

9/24-9/25 角田滑空場、10/28-10/30 阿蘇場外離着陸場、11/12-11/13 関宿滑空場、11/19-11/20 板倉滑空場（板倉滑空場開催分については開催地主管協力）

講師協力 櫻井会員

②JSA Info への寄稿

嶋田会員がクラブニュース投稿を行った。

③JSA への入会促進

- ・EMFT 講習会開催案内、航空安全講習会への参加促進（特定操縦技能審査を受けるパイロットについては参加を強く推奨）、滑空記章申請、指定養成入所時に日本滑空協会への入会を案内した。多くの日本グライダークラブ会員の日本滑空協会入会につながった。

④JSA 安全部会との情報共有

- ・JSA 安全委員会が四半期ごとに開催された（4/19、7/20、10/27、1/26）。16 クラブが参加、各クラブからのヒヤリハット、安全への取組の紹介があった。日本グライダークラブからはクラブで発生したヒヤリハット、安全行動システムのサイクル、パイロットカルテのオンライン共有の取り組みを紹介した。

- ・JSA 安全委員会からのアナウンスを適時クラブ内に共有して危険防止に役立てている。

⑤航空局等への陳情、調整

無し

D-5. ウェーブフライトプロジェクト

期間：令和4年4月～令和5年3月

概要：高性能滑空機を使用し、ウェーブ（山岳波）による日本アルプス方面、東北地方から北海道に至る長距離記録飛行、高高度飛行の研究、空域の開拓を田上会員、市川会員を中心として行った。市川会員から会員メーリングリストにウェーブフライトのプランニングについてアナウンスを17回実施し、ウェーブフライトへの考え方を共有した。クラブブログに写真・図をあわせて整理して掲載することで、一般にも広く知れ渡るようにした。会員2名が同乗でウェーブフライトを体験した（6/2、11/27）

- ①ウェーブを利用した長距離飛行ルートの開発
- ②報告会等開催による成果、知見の共有
- ③ウェーブ発生日に合わせた平日実施

D-6. 再生可能エネルギー（太陽光発電システム）の活用、財政基盤の強化

- ・太陽光発電の売電収入

太陽光発電コントローラーの電源を誤ってオフにしたことが発生し、売電収入が9月～11月の3ヶ月途絶えた。常時オンにするためのアナウンス、常時オンを明示したステッカーの掲示を行った。

2023年7月以降は「再エネ買取標準プラン」に移行となるため、令和5年度からは買取制度の変更に伴う売電収入の減少を踏まえた予算化を行った。

- ・助成金申請

下記の助成金の申請を行い、計100万円の給付を受け、財政の健全化に努めた。

経済産業省（中小企業庁）事業復活支援金	：申請	4/13	認定	4/27	60万円
群馬県ストップコロナ！対策認定制度更新	：申請	9/19	認定	12/21	
新ぐんまチャレンジ支援金	：申請	1/12	認定	3/25	40万円

D-7. 世界選手権等参加支援寄付事業

- ・令和4年度世界選手権等参加支援事業

世界大会への選手・チーム・クルーとしての積極的な参加・協力のため、下記2事業を実施した。

事業1. 2022年第37回グライダー世界選手権参加支援事業に関わる寄付金の募集（当クラブ会員の丸山毅氏が参加）

事業2. 2022年第24回グライダーアクロ世界選手権参加支援事業に関わる寄付金の募集（当クラブ会員の酒井隆氏が参加）

期間：令和4年6月11日～令和4年8月31日

事業1 114名 2,568,918円

事業2 52名 841,000円

2事業合計で120名、延べで166名の方から、合計で3,409,918円のご寄付を頂いた。

11/6に実践女子大学渋谷キャンパスとオンラインのハイブリッドで報告会を開催、会場参加19名（内8名スタッフ）、オンライン16名の計35名の方に参加いただいた。開催報告をホームページに掲載した。

付録. 活動の記録

付-1. 発航回数、運航日

- ・ 運航計画日 計 137 日
- ・ 内ディモナ運航計画日 計 24 日
- ・ 運航日 計 90 日
- ・ 内ディモナ集中運航日 平日 1 日
- ・ 総発航 回数 1,473 回
- ・ 曳航回数 1,237 回 (JA4171 606 回、JA4083 481 回、JA2845 161 回)

No.	登録記号	総時間	
		飛行時間	回数
1	JA2412	175:04	383
2	JA2442	154:34	369
3	JA2444	75:17	93
4	JA2845	130:57	353
5	JA4171	88:29	606
6	JA04KH	0:00	0
7	JA08AP	0:00	0
8	JA11AA	20:00	7
9	JA21TD	55:23	17
10	JA2254	0:00	0
11	JA22AT	43:39	11
12	JA22KF	13:38	7
13	JA22KJ	10:45	4
14	JA22MX	63:16	54
15	JA2310	0:00	0
16	JA2316	19:13	6
17	JA2395	22:55	15
18	JA2408	0:00	0
19	JA2411	63:55	39
20	JA2414	0:00	0
21	JA2431	0:00	0
22	JA2468	31:17	21
23	JA2476	9:46	7
24	JA2485	108:25	28
25	JA24UK	52:17	26
26	JA2542	59:04	45

27	JA40DG	59:19	17
28	JA58HD	87:35	39
29	JA767Y	55:30	35
30	JA800A	37:44	20
31	JA2399	0:00	0
32	JA2238	30:39	22
33	JA4083	68:07	481
34	JA2727	6:50	5
合計		1543:38	2710
曳航(4171,2845,4083)		181:31	1237
曳航を除く		1362:07	1473

付-2. 総会員数：

正会員 115 名、賛助会員 49 名

令和4年度新規入会 18名（正会員5名、ユース会員2名、ジュニア会員11名）

3月末 退会 13名、賛助会員移行 4名、賛助会員退会 6名

付-3. 表彰

吉田正 名誉会員 令和4年度「航空関係功労者大臣表彰」

付-4. 操縦士資格取得

自家用操縦士滑空機上級 松井伶子会員、牧野会員 12/17

付-5. 整備士資格取得

二等航空運航整備士 長谷川会員、谷澤会員

付-6. 滑空記章の取得

A章 5/22 天野会員、5/28 牧野会員、2/18 高見澤会員

B章 2/20 天野会員、8/16 牧野会員

C章 5/22 松井伶子会員、9/1 牧野会員

銅章 6/5 松井研人会員、3/5 牧野会員

銀賞5時間 5/3 渡邊泰啓会員

付-7. ヒヤリハット

No.22-03 2022/6/18 高度計読み間違い低空離脱

No.22-04 2022/7/18 ハスキーへエンジンオイル補充時、誤って添加剤を投入

No.22-05 2022/7/24 曳航機のエンジン不調による発航の中止

No.22-06 2022/8/20 Dimona 搬出時、堤防上で主翼を左傾せずに搬路を下り始めた

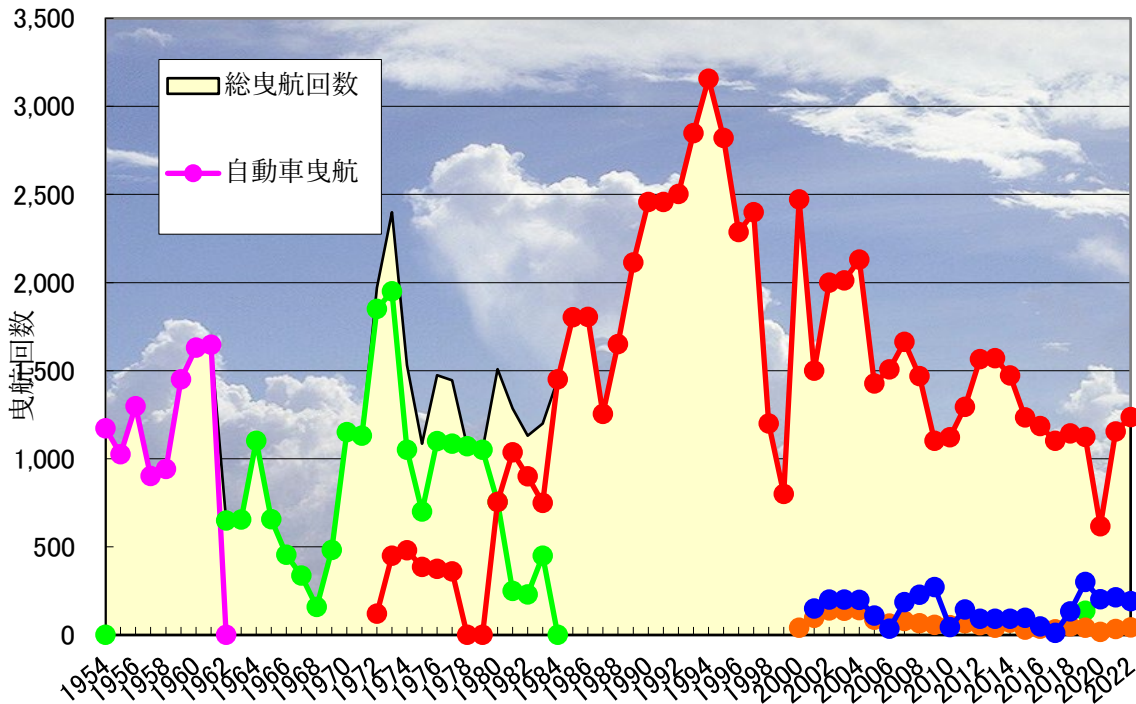
No.22-07	2022/7/8	デモナ曳航時、初期上昇中に上昇率が低下した
No.22-08	2022/9/11	ツインIIとデモナとの接近事例
No.22-09	2022/10/2	発航直前にリトリーブ車が滑走路を横切る
No.22-10	2022/9/17	航空機曳航開始時の曳航索追い越しと索の破断
No.22-11	2022/9/17	曳航離陸直後の練習生による離脱
No.22-12	2022/11/3	曳航機のエンジン不調による発航の中止
No.22-13	2022/10/15	デモナ飛行前点検時にオイルキャップを締め忘れたまま飛行した
No.22-14	2022/12/4	牽引中にトレーラーが牽引車から離脱
No.22-15	2022/11/20	撤収土手越え時に中段道路を一般車が通過
No.22-16	2022/11/27	トレーラーを牽引車で後退中に人を挟みそうになった
No.23-01	2023/3/11	ワンマンリングでの組立中の主翼転倒未遂

付-8. インシデント

無し

付-9. 曳航回数推移

曳航回数推移 (1954-2022)



付-10. 整備講習会 開催実績

- ・整備 日常基礎講習 令和4年4月30日、5月1日 8名
- ・整備 FRP講習 令和4年5月7日、5月78 4名
- ・整備 FRP講習 令和4年7月28日、7月29日 1名
- ・整備 運整準備講習 令和4年5月3日、5月4日 5名
- ・整備 運整準備講習 令和4年7月17日、7月18日 3名
- ・整備 運整実地講習 令和4年4月2日、4月3日、4月18日 2名受講 2名合格
- ・整備 運整実地講習 令和4年4月9日、4月10日、4月25日 2名受講 2名合格
- ・整備 運整実地講習 令和4年6月12日、6月25日、6月26日、7月10日、7月11日 2名受講
- ・整備 運整実地講習 令和4年10月23日、11月12日、11月13日、11月23日、11月24日 2名受講
2名合格
- ・整備 運整実地講習 令和5年2月5日、2月18日、2月19日、3月1日、3月2日 2名受講 2名合格
- ・整備 運整実地講習 令和5年3月7日、3月8日、3月9日、3月19日、3月20日 2名受講 2名合格
- ・整備 二整準備講習 令和4年8月13日、8月14日 2名
- ・整備 二整準備講習 令和4年8月21日、8月22日 2名
- ・整備 二整準備講習 令和4年9月17日、9月18日 1名
- ・整備 二整実地講習 令和4年9月7日、9月8日、9月9日 2名受講
- ・整備 二整実地講習 令和4年10月29日、10月30日、10月31日 2名受講 2名合格
- ・整備 動力準備講習 令和5年3月30日、3月31日 4名

付-11. 「2022 板倉 OLC マンスリーコンペ」滑空競技会 結果

年間表彰

優勝	田上研之
準優勝	丸山 毅
クラブクラス優勝	末松久幸
クラブクラス最高点賞	末松久幸
クラブ機優勝	宇賀神博
クラブ機最高点賞	渡邊泰啓
最優秀フライト賞	丸山 毅
板倉最高得点賞	田上研之
JSC△最長距離賞	矢野眞一
JSC△最高速度賞	鹿野元章

月次表彰

	優勝	総得点賞
12月	津久井潤	大平昌寛
1月	中村昌彦	大平昌寛
2月	宇賀神博	大平昌寛
3月	丸山 毅	大平昌寛

4月	丸山 毅	大平昌寛
5月	田上研之	大平昌寛
6月	大平昌寛	矢野眞一
7月	大平昌寛	嶋田和人
8月	大平昌寛	中村昌彦
9月	大平昌寛	中村昌彦
10月	外山浩介	大平昌寛
11月	市川博一	中村昌彦

記

令和4年度事業報告には「一般社団法人および一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和5年4月1日

公益社団法人 日本グライダークラブ

公益社団法人日本グライダークラブ

板倉滑空場

〒374-0101 群馬県邑楽郡板倉町除川 1286

TEL：0276-77-0830（運航時間中は不在の場合があります）

FAX: 0276-47-3013

ピスト携帯：090-4541-7493（運航時間中のみ）

ホームページ：<http://www.glider.jp/>

Blog：<http://blog.livedoor.jp/japansoaringclub/>

Twitter：<https://twitter.com/japansoaringclub>

Facebook：<https://www.facebook.com/japansoaringclub/>

Instagram：<https://www.instagram.com/japansoaringclub/>